

3. 底性動物

(1) 方法：図-23に示したSt. 1～20で1983年8月17日と18日に底生動物調査を実施した。表-17に示すようにSt. 3～St. 18まではアジモ場とサンゴ域を交互に調査した。採集は0.5mm目の標準ふるい（径20cm）を逆さにして、ふるいの枠の深さ（約6cm）まで海底下に押しこみ、ふるい内に入った底土をとりあげて行った。

採集物は直に中性ホルマリンで固定して持ち帰り0.5mm目のふるいにかけて個体数を計測した。小型甲殻類などは双眼実体顕微鏡を使用してソーティングを行なった。多毛類は乾燥重量も測定した。

表-17 調査地点の概要

調査地点	St. 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
岸からの距離 (m)	200	500	100	500	100	500	150	500	150	500
水深 (m)	3	5	1	4	15	5	1.5	5	2	4
底質	サンゴ	サンゴ	アジモ	サンゴ	アジモ	サンゴ	アジモ	サンゴ	アジモ	サンゴ

調査地点	St. 11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
岸からの距離 (m)	200	500	500	1000	500	900	50	500	100	400
水深 (m)	1.2	3	1	2	1.5	3	1	4	2	2
底質	アジモ	サンゴ	アジモ	サンゴ	アジモ	サンゴ	アジモ	サンゴ	岩	サンゴ

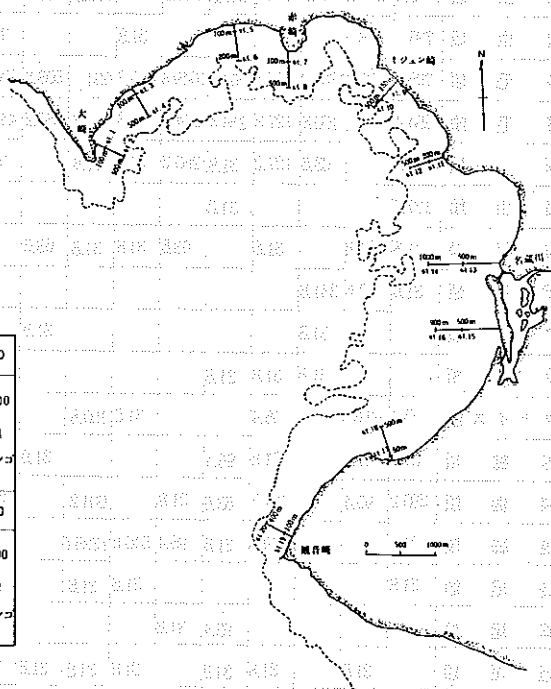


図-23 底生動物調査地点 (St. 1～St. 20)
-----水深 5 m 線

(2) 結果及び考察：結果は表-18に示すとうりである。

広く分布するのは多毛類、線虫類、貧毛類、蛭類、腹足類、端脚類、饅脚類であった。多毛類はSt. 1、St. 20を除く他の地点で最も多かった。St. 1では線虫類、St. 7と20では饅脚類が多かった。

量的には多毛類、腹足類、斧足類、短尾類が多かった。アジモ場とサンゴ域では底生動物の生息密度や多毛類の現存量とも顕著な差はなかった。

生息密度が最も高い地点はSt. 20で、これは饅脚類が非常に多かったためである。平均生息密度は3030.5 個体/㎡であった。多毛類の平均現存量は乾燥重量で0.21 g/㎡であった。多毛類はイソエフキ幼稚魚では重要な餌生物とされている。（沖縄県水試八重山支場：1983）

000000 7

数字は1㎡当たりの値